選考委員特別賞

感動の嵐

東京都　東京国際フランス学園六年　石橋　実桜

私は、十歳のときに、日本に、ひっこしてきた。コロナ禍だったので、中から一歩も出ずホテルにつめこまれて、二週間！日本で最初のいんしょうは、「飯がまずかった！」でした。ごはんがつめたくて、パンがパサパサっていう感じで、ハンバーグもつめたくて、私が生まれた日本はこんな食料事情なのか、とがっかりした。

いよいよ二週間たって、外へ出て、祖母の家に行った。作ってくれたご飯がとてもおいしくて、心がほっこりした。三週間いて、神奈川県の家に落ちつくことになった。

電車に乗ったとき、車内のきれいさにおどろいた。フランスでは、ハトが乗ってたり、たばこのすいがらやフンが落ちていたりする。ハトはただ乗りだ。さらに、おどろいたのは、道路のきれいさだ。電車をおりた後、駅もきれいだったが歩いて新居に向かう途中、ふっときがついた。「犬のフンが落ちてない！」「ごみが落ちてない！」ことを発見したのだ。清潔感が私の心をうめた。一つ目の感動だ。

ある日、近所の公園で、ボランティアの人たちがそうじをしているのを見た。日本は公共の場所がきれいだ。そして、そうじをしている人をみかける。清そう員としてやとわれている人もいれば、ボランティアの人もいる。日本人の町を美しくしようとする気持ちの背景にはこの人たちの努力がある。フランスでもそうじする人はいるけど、ポイすてする人がいるので、意味がない。悲しいことである。二つ目の感動だ。

日本は、もえるごみ、もえないごみに分かれていてあふれているところを見ない。フランスでは、ごみの分別はなく、ごみはあふれている。たまに、ごみ箱がもやされていることがある。とにかく、きれいじゃない。

フランスにも良い所はある。パンは、ばつぐんにおいしい。エッフェル塔はかっこいい。オペラ座もすばらしい。でも下を向いてはいけない。ごみが落ちているからだ。

日本の清潔さは、世界に類を見ない。どこでも、きれいだ。以前ＳＮＳで投稿されたアンケートを見たことがある。ボードに丸いシールをつけるというものだったが、各国の結果をみた。日本のアンケートの結果は、シールが整然と並べられ、男女別に色を変えてあった。そのアンケートの問いかけよりも、そのシールのはり方に日本人のていねいさと、見た人の分かりやすさを追求する気持ちに感動した。四つ目の感動だ。

今、私はこの感動の嵐の国、日本に住んでいることに、ほこりを持っている。